

会 議 録

会議の名称		第4回守谷生まれの食品推進協議会		
開催日時		平成28年7月20日(水) 開会：午前10時05分　閉会：午前11時35分		
開催場所		守谷中央図書館 集会室1		
事務局(担当課)		生活経済部 経済課		
出席者	委員	西田会長，坂本副会長，畠山委員，杉原委員，大和田委員， 亀田委員，鈴木委員，相良委員，黒島委員 計 9人		
	事務局	坂生活経済部長，宇田野生活経済部次長兼課長，間島課長補佐， 会見主査，染谷係長 計 5人		
公開・非公開の状況		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1人
公開不可の場合はその理由				
会議次第		1 開 会 2 会長あいさつ 3 協議事項 「食のまちづくり」の推進について ・今後の方向性について ・小中学校の食育における，守谷生まれの食品活用について 4 その他 5 閉 会		
確定年月日		会議録署名		
平成28年8月24日		会 長 西 田 昌 明		

審 議 経 過

1 開 会

事務局： 本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

ただ今から、第4回守谷生まれの食品推進協議会を開会いたします。本来であれば、会長が御挨拶をするべきですが、本日は、急遽、欠席となっております。守谷生まれの食品推進協議会設置要綱第4条の3項に基づき副会長の西田さんに会長代理をいただきたいと思っております。

また、皆様にお諮りしたい件がございます。梅木委員がこの守谷生まれの食品推進協議会設置当初から会長を務めていただいておりますが、諸事情により、会長を辞任し、委員として皆様と共に参加したいと申し出がございました。

そこで、皆様の中で自薦他薦を問わず立候補いただける方はいらっしゃいますか。

—立候補なし—

事務局： いないようなので、事務局案として、副会長を西田さんをお願いしておりますので、そのまま繰り上がっていただいて、西田さんを会長に御提案させていただきますかと思っておりますがいかがでしょうか。

—異議なし、承認—

事務局： それでは、西田さんが会長となりますので、よろしく願いいたします。

続きまして、今まで西田さんに副会長を務めていただいておりますので、会長になりますと、今度は副会長が不在となりますので、また先ほどと同じく、皆様の中で自薦他薦を問わず、立候補いただける方はいらっしゃいますか。

—立候補なし—

事務局： いないようなので、事務局案として、副会長に商工会会員の坂本さんを御提案させていただきますかと思っておりますがいかがでしょうか。

—異議なし、承認—

事務局： それでは、坂本さんに副会長をお願いいたします。よろしく願いします。

続きまして、次第には入らせていただきます。

2 会長あいさつ

西田会長： 守谷生まれの食品推進協議会、非常に難しいテーマで、幅広い奥行きのあるテーマに取り組んでいるわけですが、それだけ難しいということは、やりがいがあることにつながるのではないかと感じております。

この協議は過去3回やっておりますが、皆様方の貴重な御意見をもとに会議を進めております。この調子でまた御協力をいただいて、充実した会議にしたいと思っております。そして立派な成果につなげたいと思っておりますので、改めて御協力をお願いします。どうぞよろしく願いいたします。関係者の皆様には、今後ともよろしく願い申し上げて御挨拶といたします。

事務局： 続きまして副会長の坂本さん，御挨拶をお願いいたします。

坂本副会長： 3回協議して，なかなか難しい会議だと思いますし，じっくりやっていたかなければいけないのかなと思います。商工会会員として副会長を務めさせていただきますので，よろしくをお願いいたします。

事務局： 本日の協議会は，13名中9名の委員の出席をいただいておりますので，守谷生まれの食品推進協議会設置要綱第5条第2項の規定により，会議が成立することを御報告いたします。また，本協議会は「守谷市審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき公開となっております。本日は1名の傍聴があります。なお，本日の審議を記録するため，録音をさせていただきますので，御了承ください。

西田会長： 【傍聴される方へ「傍聴する際の注意事項」について説明】

第2回会議において，お諮りいたしました会議録における発言者の氏名を記載することにつきましては，今回もそれでよろしいでしょうか。

—異議なし—

3 協議事項 「食のまちづくり」の推進について

・今後の方向性について

・小中学校の食育における，守谷生まれの食品活用について

西田会長： それでは，次第3の協議事項，「食のまちづくり」の推進について，今後の方向性を協議したいと思います。

事務局： 【資料「第4回守谷生まれの食品推進協議会」に基づき，私の選ぶ守谷の魅力アンケート，守谷市ふるさとづくり寄附に対する返礼品，もりや循環型農食健協議会「もりあぐ」の活動を説明】

西田会長： 事務局から説明いただきましたが，質問等はございますか。

勉強不足で全く知らなかったことがあります。知ることが前へ進む第一歩です。疑問や知りたいこと，聞いてみたいことがありましたら，是非，この機会に質問をしてください。いかがでしょうか。

事務局： 守谷生まれの食品を推進，選定して，PRしていくことを，以前，提案しておりましたが，実際，「もりあぐ」でもセレクション，推奨品をやろうとしております。似通った部分，方向性が同じです。参考までに「もりあぐ」の情報をいただきたいのですがよろしいでしょうか。

亀田委員： 【朝市・「もりあぐ」の活動説明】

週一で活動，かなりの回数を集まってスピーディーに進んでおり，予算は今年度で交付金が終わりです。できれば，スタッフ不足，人員不足であるので，一緒に活動してもう少し大きな形でできればと思います。地産地消を盛り上げるような場所や物など，具体的なことは言えませんが，そういうものを目指したいです。この協議会の方々と一緒に活動していきたいです。

「もりあぐ」には，色々な分野の人がいるので色々な知恵が集まります。

「もりあぐ」のデザインもモコバスをデザインした方です。残念ながら取手の方ですが、守谷のことを熟知しており、このデザインも寝ずに作業いただいております。もりやグルメガイドは短期間で作成したため、蕎麦とスイーツとなっていますが、今年はバージョンアップしたいと思っています。

杉原委員： 「もりあぐ」も「守谷すたいる」も協議会も同じ方向で、地産地消、地域を盛り上げようという目的でどれも開かれていいです。その元締めで一番高いところにいる協議会が、他団体と協力できる体制であればよいと思います。みずき野も買い物難民的な要素があると聴いています。協議会でなんらかの準備ができて、朝市等ができれば、地元みずき野の人が喜ぶのではないのでしょうか。駅前では「守谷すたいる」が増設して店をやっていますが、やっていくのは大変で、店長がかなり苦労しています。これも協議会で、市として応援できるのであれば、もっともっとすばらしい守谷市になるのではないかと思います。

西田会長： いいお話をありがとうございました。皆、市を良くしたい思念と思います。皆様方の生活が充実すれば、それに越したことはないと思います。買い物難民に手を差し伸べることは、立派なことです。貴重な御意見、ありがとうございました。

坂本副会長： 私は、みずき野の朝市に参加させていただいております。「もりあぐ」もオブザーバーとして参加しております。守谷に生産されている全体について、地元で消費してもらう方向性なのか、守谷で作られているものの中で絞り込んで守谷のものはこれだと言えるものを育てるのか、地産地消を目指しているのか、守谷にあるものをPRするのか、その辺がはっきりしていなく、分からないところです。

亀田委員： みずき野のイベントに対しては、レストランを開いています。これは市内の人のための消費です。駅前の朝市は、新住民や市外の人中心での消費です。

事務局： その疑問は、事務局も抱えているものです。一番の目的は地産地消です。理想論は「いただきます」の感謝の気持ちです。具体的に何をするのか。その中の1つの方法が、特産品を絞り込む、選定、PRなどがあります。なかなか難しいのですが、商品開発があることを、前回お話させていただきました。色々な手法がある中で、どれが効果的かと考えたときに、今までの考えは、特産品を絞り込み、選定、PRするのがやり易い、効果が早いと考えていました。ただし、おおもとは地産地消なので、逆に枠をつけてしまうのもどうでしょうか。広過ぎると難しいし、非常にジレンマがあります。そこは皆さんの意見を聞いて絞りこみたいのですが、この後、別の提案をさせていただきたいと思います。

「もりあぐ」についても、ここでどうこう話すことではなく、将来的な構想なり、交付金が続くわけではないので、「もりあぐ」も考えていかなければなりません。この協議会との絡みや協力できることがあるとか、まずは、紹介いただいた上で、代表の方と話を進めていきたいと思っています。あくまでも、こ

ちらに話をしないで、お付き合いしているのは市として情報提供していただいているものなので、今後は、協議会もからめた形で進めていければと思います。

亀田委員： 「もりあぐ」は、色々なイベントで声掛けをいただき参加していますが、市ではないため、PRをするにも申し訳ない気持ちです。なぜか、「守谷すたいる」の私がステージで市のPRをしているので、この協議会でできたら良いと思います。

西田会長： 今、お話しをいただいたように、坂本さんの発言が非常に難しいことと思います。大きな難しさの一つだと思いますが、色々な議論をする前に事務局から何かありましたらお願いします。

事務局： **【資料「食のまちづくりの推進」について説明】**

まずは、守谷生まれはこういうものだと分かるような、興味を持ってもらうことでPRをしつつ、守谷生まれの食品という言葉を知ってもらうことを第一に進めていくことを考えています。もう一つは、今後の方向性として、「もりあぐ」との関わりなり、御了承いただければ、接触なり、活動させていただいた上で、皆さんへ御報告、あるいは集まりの際、御協議いただきたいと思えます。先々の話ですが、「もりあぐ」にもこの協議会に出席いただいて、お話をいただくことができればと思っています。それ以外にも、条例にもあります地産地消、食育との連携の部分で、その食育が一番行政が関わりやすいと思えます。事務局からの提案ですが、この協議会にも栄養教諭の先生に参加いただいておりますが、給食等に携わっておりますので、取り掛かりとして食育に絡めて守谷生まれの食品のPRができればと思います。先生から活動の状況をお話し願います。

黒島委員： **【資料・給食の献立表、栄養指導資料に基づき説明】**

守谷市の給食は13校分を給食センターで調理しています。Aブロック、Bブロックと2つのブロックに分けて、1か月ごとにメニューを交代し、2か月で皆同じメニューを食べる仕組みとなっています。11月は地産地消強化月間として力を入れていますが、守谷市産ではなく、茨城県産で地産地消としています。守谷市産は手に入りません。また、毎月第3日曜日が「茨城を食べようDay」、その日から1週間は「食べようWeek」として、日にちを合わせて、「茨城をたべよう献立」に取り入れています。6月は茨城だけではなく、全国的に食育月間として、給食を通して重点的に食育を子どもたちにPRしています。

学校給食のお米は、守谷産コシヒカリを使用しており、皆さん知らないもので、献立表にはこれを記載しています。給食は空腹を満たすためだけのものではなく、教育の一環として、給食当番や食事、栄養のこと学んでおります。給食の時間には、配布した栄養指導資料を基に、献立や食材の紹介を校内放送で伝えています。給食は年間190回程度で、ただ食べるだけではなく、守谷市のものを取り入れながら子どもたちに伝えていければ、イベント的に

1回PRするよりも、継続して子どもたちに浸透できるのではないかと思います。守谷産の食材を給食で活用できれば、普段の学校生活の中からPRできると思います。

西田会長： 守谷産の食材が十分に使われてないこと、守谷に生きる人間として、小学生になり、給食をいただいている子どもたちが守谷産しか食べないというのは良いことだと思いますが、ちょっと難しいところもあります。もっと割合が大きくなれば、守谷を自慢できると思います。給食を通して子どもたちが周知活動をしているのは素晴らしいことです。もっと内容を豊かにできるよう、こちら側から仕向けるようにしたいと思います。

杉原委員： なぜ、守谷産の食材が手に入りにくいのですか。具体的な理由を教えてください。

黒島委員： 給食ならではの色々な条件があります。現在、給食の献立は11月分を作成しています。献立を立てた後、各学校の給食主任で検討し、使う材料の細かい資料を作成し、食物アレルギーの子どもの家庭に事前に配り、食べ物の確認や判断をしていただきます。献立を考えてから作るまでに時間が掛かるので、大まかに、この季節のもの、旬を取り入れた献立作りはしますが、例えば、間際になって収穫できたからこの食材を使ってほしいと言われても、献立は変更できません。6,500食分の量の確保や朝の納品などいろいろな条件があります。実際は少ないのですが、この場だと販売や生産している方がいるので、御知恵をいただければもっと良くなると思います。

杉原委員： 例えば、「住化ファーム」が、かなりの面積量でキャベツを作っています。町内で何か所か、これを主に作っている人がいます。その人に声を掛ければ、守谷産で作られた野菜が子どもたちに使われることが多くなるのではないかと思います。地産地消とは、基本地元で作って消費する、足りなければよそから入れる、多ければよそへ出し、消費してもらう、地産地消の本来の姿です。安心安全な食品を子どもたちに食べてもらえる。「住化ファーム」がこの後キャベツ以外のものを作ると思うので、農家と併せて声掛けができたなら、地元のもが使われる可能性があるのではないかと思います、いかがですか。

畠山委員： 皆さんが地元のをたくさん使っていきたいと頑張っているのを聞いて、うちのキャベツを皆さんに食べていただくには、どうしたら良いかを考えてみましたが、企業としてキャベツを作ることは、もう出し先が決まっているのです。例えば、この部分を学校給食、「もりあぐ」へとなると、イベント時に少し出すのは可能ですが、企業としてやっている中で、全部供給するとか分散してしまうと、労力が掛かり、販売コストがなかなかうまくいきません。うまい仕組みがあれば、皆さんに提供できるのではないかと思います。通常スタイルだと難しいので、むしろ、生産者の方々をうまくまとめられれば良いと思います。

杉原委員： そういう代表として「やさい村」があります。企業として、確かに企業も企業の考えがあると思いますが、地元にお世話になっているのも事実です。大事にして、協力し合いながらやっていく必要があります。

畠山委員： 細かく出すのはすごく難しいです。かなりのトン数をまとめて扱っていただく、販売先をできるだけ絞る、細かく分散するよりは絞った方が良いのです。市役所で開催している「新そばまつり」では協力しています。給食では、量的な問題など色々な問題があると思います。もっと色々な生産がまとまるような仕組みができれば、正直可能だと思います。

西田会長： 今のお話で良いヒントがありました。今までは、そこまで掘り下げて話をできませんでした。生の声として、黒島委員の話の関連で、かなり展開されていますが、この辺は大事なところ。素人の立場でも、経営的に成り立つか、その辺を踏まえて、お話の場を作りたいと思います。先ほど、事務局から一つの方向性を説明いただきましたが、それとの関連でお願いします。

事務局： 食育・給食を観点に御説明いただいて、食材に関する議論も出てきました。今後について、黒島委員と協議をして、どんなことができるか、食育・守谷生まれの食品をお子さんたちにも知っていただく方法、給食だけでなく考えられることがあれば、例えば、チラシを作って興味を持ってもらう、何かの際にPTAも含めて周知活動ができるのではないかと思います。実際やっていく場合には、先生と協議、教育委員会、学校の校長先生と話をしてお互いの協力をいただかなければなりません。まずは、先生と協議をし、やれることを整理して、皆さんに御報告したいと思っています。まとめた形で御報告できましたなら、協議会で動く第一歩としたいと思っています。それと平行して、事務局側でPR周知をしつつ、小中学校を中心とした舞台で何ができるのかというところで、協議、できれば実施までとっております。今回、協議会で具体的な提案がなく申し訳ありませんが、基本的には外部で動かれている団体の方との協議、接触なり、食育教育現場での取組、皆さんに協議いただいて具体的なものを打ち出していったらと考えています。

西田会長： ありがとうございます。かなり話が良く見えてきた節があります。今の事務局の提案は、一つの大きな提案です。これを進めていくかどうか、もう一度事務局で検討してもらい、先ほど坂本副会長からの話で、単品でPRするのも一つの方法、それとも違う方法が良いのか、その辺の整理ができるのではと思います。どちらの方向を向いて、どんな話をしたらよいか、一番難しいところですが、できるだけ皆さんの意向を組込みながら、協議会の成果につなげられる方法を考えたいと思います。

事務局： 先ほどの話で進めさせていただく中で、皆さんにそれぞれ色々な立場で委員に参加いただいておりますが、我々も食育という中でなんらかを進めていく際は御協力いただくこと、相談することも当然ありますが、その際には個別でお願いする場合もありますし、協議会にて、今回は、8月にやらせていただきました

いと思っています。その辺で御提案できればと思いますので、よろしく願いいたします。

西田会長： ほかに御意見があれば、遠慮なく発言をお願いします。

鈴木委員： 商工会は事業者の団体ですので、これに関係する事業者として、レストラン、お菓子屋さん、食品関係を扱っている事業者が関係してくると思います。特産品の事業、レストラン、飲食店など、守谷には集合体というか連合とする組織がありません。そういった組織があって、その中でのお客さんを考えていく。各店舗で競争して一つの方法でやっていく。守谷だったらこれと言えるようなものを作っていく。レストランでは、例えば季節のもので競合するとか、守谷にいけば何かがある、お店の展開、現状として組織がないので、協議会を通してそういった組織ができていけばと良いのではと思っています。そういった構想もあると思います。

事務局： 地産地消の取組ということで、「もりあぐ」の活動と重複してしまう活動はどうなのかということもあり、「もりあぐ」の活動で協力できる部分は協力させていただくことで、私たちは別の観点で、教育の部分とか、子どもたちに地元のもので給食を楽しんでいただく、そういった活動をホームページで皆さんに周知していき、守谷生まれの食品を売りにしていきたいと思っています。活動がうまくいけば、違う活動分野にも手を広げていけると思います。

それ以外にもアイデアなどありましたら、随時、電話でもメールでも構いませんので御提案をいただければと思います。

西田会長： 案に沿った形で進めていきたいと思っています。その都度、意見を言っていたきたいと思っています。事務局案を中心に意見交換をしていきたいと思っていますので、皆さん御了解いただきたいと思っています。

——同了解——

4 その他

事務局： 次回の開催は、8月を予定しております。よろしく願いいたします。

5 閉会

事務局： 本日は長時間にわたり、ありがとうございました。